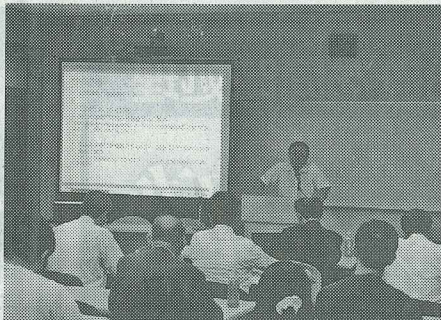


### 富山高専 廃石膏ボードR講座を開催 最新事例から技術課題など紹介

富山高専専門学校は9月16・17日の2日間、にわたって「第4回循環型社会講座」廃石膏ボードリサイクルを中心とした環境技術・ビジネス」を富山県民共生センター(富山市)で開催した。当日は、処理業者はじめ、ボードメーカーなど約30人が参加。活発な意見交換が行われ、廃石膏ボードリサイクルの注目の高さがうかがえた。

公開講座では、▽富山高専専門学校教授・袋布昌幹氏▽同・清水真氏▽同准教授・間中淳氏▽日本能率協会総合研究所・全国廃石膏ボードリサイクル協議会事務局・松橋宏明氏

▽(一社)泥土リサイクル協会・西川美穂氏、野口真二氏▽(一社)石膏ボード工業会専務理事・林宏治氏がそれぞれ登壇した。講演内容は、石膏ボードリサイクルの最近の話題から始まり、環境省が実施した調査の結果を紹介した他、いくつかのリサイクルの事例分析の報告などがあつた。最終日には、「これからの石膏ボードリサイクルの方向性を考える」との演題で、総合討論会も行われた。講演で袋布教授は、「国内でも石膏の研究をより進めていくことが課題解決の1つとして考えられるのではないか」と話した。



講演会のようす

ルを促進していくには「地盤と土木でのリサイクル資材の利活用が鍵を握る」とした上で、「海外では、マテリアルとして石膏に関する研究成果が今でも国際論文に掲載されている」と指摘。